

会員の声

現在の仕事や在学中の思い出など、3名の会員の皆様より文章を寄せていただきました。

■高専卒業生に助けられています

16期(土木) 森脇 孝

島根県庁に東京事務所があるということはほとんど知られていないと思いますが、その東京事務所に4月から勤務しています。国の省庁(私の場合は国土交通省)との連絡調整や情報収集が主な仕事です。

この仕事を進める中で、非常に心強く、頼りになるのが全国にある高専出身者の存在です。少し会話が出来るような状況になった時、お互いが高専出身者であることがわかると一気に距離が縮まります。少数ということもありますが、同じ環境の中で勉強してきた仲間という親近感がそうさせるのだと思います。実際に、丁寧に誠実な対応をしてくださる方が多く、高専卒業生に助けてもらいながら仕事を進めています。

■島根を陰から支える者

25期(電子制御) 内田 博之

会員の皆様におかれましてはご清栄のこととお慶び申し上げます。さて私こと、出雲市に本社を置くIT系企業「アイナス」を設立、代表に就任しまして早13年が過ぎました。その間、様々な方々と出会い、またご支援を賜りながら今日まで営業して参りましたが、そんな中、

島根県内における「技術分野」の特に要職にある方に、母校松江高専の出身者が多いことには、いつも驚かされます。言うなれば、我らが同窓生が島根の「技術の下支え」をしていると言っても過言ではなく、同門として私の大きな誇りでもあります。若き後輩たちや諸先輩方のご活躍が今後の島根の原動力となり、更なる発展に寄与されることを祈念し、私もまた共に頑張りたいと思います。

■心に残る思い出

39期(機械) 小松恵里子(旧姓加藤)

在学中にはいろいろな思い出がありますが、やはり夏の時期が一番印象的です。昼ごはんの後、売店で買ったアイスを体育館の裏で食べたり、夕方涼しくなってから図書館のベンチでのんびりおしゃべりをしたり、寮にいた時はテスト前に毎日徹夜して、1階の自動販売機の前で休憩し、いつのまにか朝になっていたり…。夏休みには、よく海に行きました。昼はバイク、夜は車でドライブし、夜明けまで話し続けたこともありました。今、当時の私に会えるなら「遊んでばかりいないで真面目に勉強なさい」と言いたいですが、社会人になり、あの時のように自由な夏はなくなってしまいました。だから今では懐かしく思う反面、切ない気持ちにさせる思い出として心に残っています。

同窓会HPおよび松江高専HP紹介

本会および松江高専は、それぞれ以下のようにHPを開設しております。ぜひご覧ください。

同窓会HP

<http://www2010.matsue-ct.ac.jp/dosokai/>

松江高専HP

<http://www.matsue-ct.ac.jp/>

「松江高専ものづくり教室」 スタッフ募集

今年8月27日(土)に、松江高専と本会の合同企画による小・中学生を対象とした「ものづくり教室」を開催いたします。スタッフとしてご協力いただける方は、ぜひ事務局までご一報をお願いいたします。

事務局より

学校創立48年目にして、初めて会報を発行しました。お盆までには、皆様のもとに届いていると思います。この会報が会員間の交流等に役立ちますよう、事務局スタッフ一同、切に願っております。より良い同窓会活動のため、皆様の忌憚ないご意見をお待ちしております。

平成23年度 松江工業高等専門学校 行事予定

皆様の在学中の学校行事と比べてみて下さい。

平成23年

4/6	入学式(定員は本科200名,専攻科20名)
4/7	前期始業式
8/6~7	オープンキャンパス(中学3年生対象)
8/9~9/29	夏季休業(期末試験後に「夏休み」開始)
9/30	後期始業式
10/8~9	高専祭(前・本・後夜祭 模擬店など。 近年「宍道湖一周」は実施せず)
10/10	体育祭(近年「棒倒し」は実施せず)
11/10	ロードレース (1~3年生のみ。男子約15km,女子約11km)

平成24年

1/16~17	スキー合宿(2年生)
1/21	入学試験(推薦)(本校)
2/19	入学試験(学力)(本校・浜田・三次)
3/1~31	学年末休業
3/17	卒業式

松江工業高等専門学校 同窓会 会報

創刊号

2011.8.1発行

同窓会事務局

〒690-8518 島根県松江西市生馬町14-4 松江工業高等専門学校内
TEL.0852-36-5111 FAX.0852-36-5119 E-mail: m-soumu@matsue-ct.jp
<http://www2010.matsue-ct.ac.jp/dosokai/>

同窓会報発行にあたって

松江工業高等専門学校同窓会 会長(10期(土木)) 多久和正司



会員の皆様におかれましては、各界各分野で御活躍のことと思います。私たちの母校松江工業高等専門学校も昭和39年の開学以来、学科再編や専攻科の設置、独立行政法人高専機構の発足など環境の変化に対応しながら、間もなく半世紀を迎えようとしています。この間に約6,500名の卒業生を送り出し、同窓会も設立時と比較にならない規模になっています。同窓会としても、会員数の増加に伴う総会開催の困難さ、母校への貢献の在り方などについて議論を続け、代議員制度の創設など規約の改正も行いながら、会員と母校の接点としてどのような役割を果たすべきか試行錯誤を繰り返してきました。

そうした中、会員の皆様への情報発信が十分にできていなかったという反省から、母校の様子、同窓会の取り組み、会員の動向などをお知らせしながら、皆様からお気づきの点などご意見もいただき、同窓会活動の活性化に役立てていきたいと考え、会報をお届けすることとしました。

歯止めのかからない少子化時代において、母校においても学生確保に奔走されていると聞いていますが、その中から優秀な後輩たちが毎年巣立っています。折しも私たちがかつて経験したことのない規模になっています。同窓会としても、会員数の増加に伴う総会開催の困難さ、母校への貢献の在り方などについて議論を続け、代議員制度の創設など規約の改正も行いながら、会員と母校の接点としてどのような役割を果たすべきか試行錯誤を繰り返してきました。

歯止めのかからない少子化時代において、母校においても学生確保に奔走されていると聞いていますが、その中から優秀な後輩たちが毎年巣立っています。折しも私たちがかつて経験したことのない

東北地方太平洋沖地震が発生し、被害の詳細が明らかになるにつれ、会員の皆様にとっても技術者として衝撃の連続であろうと推測しています。皆様の様々な思い出も後輩たちに伝えていければと思っています。

最後に同窓会の活動維持に対し、母校で教壇に立っている会員のご尽力に対し衷心より謝意を表するとともに、会員の皆様には今後とも本同窓会と母校の発展にご理解とご支援をお願いいたします。



最近の松江高専校舎(学びの庭)

会報創刊おめでとうございます

松江工業高等専門学校 校長(同窓会 名誉会長) 荒木 光彦



松江高専の校長に着任して5年になりますが、同窓会の皆さんにご挨拶するのは初めてです。簡単ですが自己紹介させていただきます。私は昭和37年に京都大学工学部電子工学科に入学し、以来44年間同じところ(学科名は色々変わりましたが)で過ごしました。システム理論、自動制御工学、医療工学などに手を出し、また評議員、高等教育教授システム研究開発センター長、工学研究科長・工学部長などで目を回しているうちに定年1年前!お声が掛かったのを幸いにこちらへ参りました。大学に居たころから研究室所属の高専卒業生の指導、高専の先生との共同研究、高専へ出かけるの特別講義などで馴染みがあった所為か、あまり違和感なく校長職を勤めさせて頂いております。

松江高専10年史を拝見しますと、地元の方々の熱意に支えられて誕生した学校であるという印象を強くします。現在でも地元の諸機関には大変お世話になっておりますが、やはり運営費交付金の出所である中央の影響が圧倒的です。平成16年に(独)国立高等専門学校

機構が発足して松江高専もその傘下の1校となり、機構本部のガバナンスの下で地域の特色を如何に出していくか苦慮しております。しかし、そんな中でも本校学生は高専体育大会、ロボコン・プロコン・デザコン・英語プレコンなどで高成績を挙げ、教職員は科学研究費や教育GPなどの競争的資金を多数獲得し、また地域人材育成事業も活発に行っており、本校の存在を大いに主張しています。同窓会の皆さんにおかれましては、会報創刊を機にますますご支援くださいますようお願いいたします。



ロボコン全国大会に出場した電気工学科の学生(平成22年11月・両国国技館)

平成22年度 定年退職教員 紹介



昨年度をもって、宇野和男教授、勝部豊教授、高橋栄教授の3名の先生方が松江高専を定年退職されました。その中から、お二人の先生方にお言葉を寄せていただきました。

学級担任13年間の思い出

数理科学科(数学) 勝部 豊



昭和51年10月から10年の長い学生生活を終え、松江高専に赴任し、今年の3月末日をもって、34年と半年の高専一筋の勤めを終えて定年退職しました。高専在職中には、授業、担任、部活動、学生会、寮生会等々を通して多くの学生と接することができました。私にとって、学生一人一人は何ものにも変えられない「宝者」です。

34.5年間の在職中に13年間担任を持たせていただきました。2年連続のクラスが2回、3委員会との兼務が4年間あります。色々と学生に迷惑をかけたと思いますが、精一杯担任を務めたと思っています。退職に当たり、担任歴を整理してみました。学生名簿をみると懐かし(苦しい思い出もありますが)当時の様子が思い出されます。2回目からの担任業務の教訓になった最初の担任(S53.54年度の電気工学科)、クラスの団結から学生会長、副会長を出し学生会を盛り上げたS59.60年度の土木工学科2,3年の担任、クラスカラー決定(紫)からスタートした情報工学科1期生の担任、そして、体育祭のクラス対抗戦にクラス一丸となり優勝を勝ち取った、最後の担任となったH16年度の情報工学科3年等々思い出は尽きません。何故か、電子制御工学科の担任経験がありません。

最後に、高専卒業生の今後のご健康とご活躍を祈念いたします。

私の担任歴(通算13年間)

期 間	期・クラス
S53.4~S55.3	14期・E2, E3
S57.4~S58.3	19期・M1
S59.4~S61.3	20期・C2, C3
S63.4~H1.3	25期・E1
H2.4~H3.3	27期・C1
H4.4~H5.3	29期 ^{※1} ・J1
H6.4~H7.3	30期・C2
H13.4~H14.3	38期・1年5組
H14.4~H15.3	38期・M2
H15.4~H16.3	40期・1年1組
H16.4~H17.3	39期 ^{※2} ・J3

※1 J科としては1期
※2 J科としては11期

松江高専同窓会 会員の皆様へのお礼

人文科学科(英語) 高橋 栄



昭和60年から平成23年まで26年の長きにわたり、同窓会の皆様方には格別のご指導とご協力をいただき、お陰様で元気で勤めを終えることができました。あらためて心より厚く御礼申し上げます。

在職中には、生産機械工学科の電子制御工学科への改組(S62)、情報工学科の新設(H4)、新技術教育研究センター発足(H8)、ロボコン中国大会優勝(H10)、「松江テクノフォーラム」設立(H13)、同窓会よりマイクロバスの寄贈(H13)、Annual Reportの創刊(H13)、専攻科の設置(H14)、女子寮の新設(H14)、プロコン全国優勝(H15)、ニュージーランド語学研修開始(H18)、全国高専英語プレゼンテーション連続優勝(H21~H22)など、松江高専の華々しい上昇と活躍がありました。

このようなすばらしい時に勤務できたことを誇りに思うとともに、松江高専の益々のご発展をお祈りしております。筆末ながら、退職に際し同窓会よりご丁寧なる記念の御品を賜りましたことに衷心より御礼申し上げます。皆様、本当にありがとうございました。

平成22年度

定年退職記念講演

高橋 栄 教授 「回想 26年」

勝部 豊 教授 「高専34年間で振り返って」

宇野 和男 教授 「触ってみたいオ○リ○ク~紀元前からの誘い~」

今年3月15日に松江高専において、平成22年度で定年退職される3名の先生方が、上記題目で講演されました。講演会には、同窓生、教職員、在校生ら約150名が参加しました。



講演を終えた先生方
(左から宇野先生、勝部先生、高橋先生)

平成23年度 新任教員 紹介

今年度より松江高専に着任された先生方にお言葉を寄せていただきました。

これからの抱負

環境・建設工学科 山田 裕巳



面接のために初めて松江に参りました。バスで松江城のお堀の脇を通り高専に向かいましたが、歴史の厚みというのは、何の説明もいらないもので、美しい佇まいに、しばらく自分が何をしに来たのかを忘れてしまいました。高専に着任して、今はまだ授業に精一杯です。こういう授業をしたいと夢は膨らみますが、あらためて現実は、こうも違うものかと歯がゆく思っています。様々な活動を通じて教育技術をもっと磨き、ゆくゆくは学生の記憶に残る授業をしたいと思います。

学生からは、(たぶん親しみを込めて)「ひろみさん」と名前と呼ばれることもあります。同じ目線に立って、共に進んでいけるようにしたいと思います(これも難しいです)。

「水の都・松江」に来て

数理科学科(数学) 神吉 知博



群馬県出身の私にとって、島根県どころか、中国地方にもほとんど縁がなかったので、今このように松江高専にて教鞭をとらせていただくことになろうとは想像していませんでした。群馬県は海に面していませんので、水に囲まれた松江は私にとってとても新鮮です。夕日や夜景も宍道湖によく映え、情緒

地元企業求人情報

松江高専と地元企業で構成される産学連携組織「松江テクノフォーラム」(平成13年に設立)の加盟企業より、求人情報を提供していただきました。ご質問のある方は、記載されている連絡先に直接お問い合わせ下さい。なお、次号では同窓会会員の皆様に対しても求人情報も募集する予定にしております。

株式会社 三研テクノクリエイト

- 仕事内容 製品に関する技術的対応業務全般
- 応募資格 特になし
- 勤務地 松江市浜乃木2-2-6
- 勤務時間 9:00~18:00
- 給与 160,000円~250,000円
- 休日休暇 土日祝日盆正月
- その他 特になし
- 連絡先 吉儀(TEL: 0852-27-5676)
- URL <http://www.sanken-tc.com/>

株式会社 アイ・コミュニケーション

- 仕事内容 双方向告知通信システムの開発販売、テレビ電話端末を利用した各種サービスの提供
- 応募資格 高専・短大卒以上、要普通自動車運転免許
- 勤務地 本社(松江)、東京支社、札幌事務所
- 勤務時間 9:00~18:00
- 給与 当社規定による(昇給年1回、賞与年2回)
- 休日休暇 日土祝、夏季休暇、年末年始
- その他 各種社会保険完備
- 連絡先 安食・三島(TEL: 0852-28-1001)
- URL <http://www.i-communication.co.jp>

松江高専の印象と私の抱負

人文科学科(英語) 大森 誠



今年4月より、英語科に着任いたしました大森誠と申します。私はこれまで5年間、中学校で教員をしてきました。高専での教員生活はまだ日が浅いのですが、授業や部活動、普段の生活をとおして、多くの学生からエンジニアになるという強い熱意や高い志を感じています。また、先生方の学生に対する期待や情熱も感じており、とてもすばらしい教育環境であると思っています。

私自身もこれまでの経験を活かしながら、松江高専の教育目標である「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」の育成に貢献し、学生のみなさんの目標達成や夢の実現を応援していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

